

編集後記

今夏のように暑い日が続くと、ついそのことから書きたくなる。暑さと精神疾患との関連については古くはクレペリンの記載にあるが、私がいま思い浮かべるのはカミュの『異邦人』である。主人公のムルソーは「太陽のせい」アラビア人を射殺するという「理由なき殺人」を犯す。何年前に、フランスの精神科医から「あれはうだる暑さで解離を起こしたのだ」と聞いたことがある。解離だと言いでいわれてしまうと、DSM で育った精神科医はそれで納得してしまうかもしれない。しかし、人間の所業は平板な精神医学用語でひとくくりにはできるものではない。カミュが不可解殺人の理由を明晰な筆致で延々と考察しているのは「準備因子」である。

「展望」欄には「縦断的疫学研究からみた PTSD の転帰」が載っている。これまでの研究成果を簡潔にまとめた実に有意義なものであるが、準備因子への言及がない。これは著者らの手落ちではない。過去の文献に欠けているからである。「準備因子なきところ、結実因子だけでは PTSD は発症しない」(加藤正明)という考えに立てば、準備因子の性状は発症に関してばかりでなく転帰にも関係してくるはずである。準備因子の性状によって、結実因子の“爆弾”によって空く穴の大きさはさまざまであろうし、穴が埋まっていく歳月も違ってこよう。だが準備因子は、“爆弾”で舞い上がった土埃に覆われたり、元の形が崩れてしまったりで、本来の姿は見えにくくなってしまう(発症後それまで抱えていた“悩み”がどこかに消えてしまうケースもみられるほどである)。準備因子を把握することは容易ではない。

今後ますます大切な分野となっていくであろう「緩和ケアチームにおける精神科医の役割」を特集として組んでみたが、そこでも準備因子への目配りは欠かせない。同じ症状であっても、その背後には症状を綾なしている準備因子という糸が絡み合っている。それを丹念にほぐすことによって患者さんの苦悩の源に達していくことが治療になる。言い換えると、精神科医の役割とは、それぞれの症状を「適応障害」や「うつ病」などとひとくくりにして定式に沿って診ていくことではない。むしろ、精神医学的診断名をつけることによって切り落とされた枝葉を拾い集め、そこから患者さんの“生きている全体像”を浮かび上がらせていくことなのである。この意味で、緩和ケアは精神医療のひとつのモデルケースとなる。しかしながら、これには手間と時間がかかる。ちょうど巻頭言で山口先生が述べておられるように、精神科医が足りないのである。本特集のそれぞれの論文の行間から、枝葉を拾い上げていくことの大切さと苦労とを読み取っていただければ幸いである。(M. I.)

■ 編集委員

飯森眞喜雄

井上 新平

小島 卓也

小阪 憲司

松岡 洋夫

三國 雅彦

山崎 晃資

(ABC順)

精神医学 (第 49 巻 第 9 号)

2007 年 9 月 15 日号 (毎月 1 回 15 日発行)

1 部定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5 %)

2007 年 年 ぎ め 予 約 購 読 料 30,600 円 (送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 編集室直通 (03) 3817-5711 (担当) 三由・小松原

Fax (03) 3815-7802

E-mail seishinigaku@igaku-shoin.co.jp

URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/seishin/>

印刷所 三美印刷(株) 電話 (03) 3803-3131

広告申込 (株) 丹水社 電話 (03) 3561-1323

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。
- JCS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。